

## シニア社会のよりよい交通環境づくりの研究

主査 高田邦道(日本大学教授)

本プロジェクトでは、これまでシニア社会の交通実態を分析すべく、高齢者のモビリティを含めた交通構造の解明についての議論や分析を進めてきた。その過程で、わが国の社会構造や制度は、今後の少子高齢化の状況に即しておらず、大きな変革が求められていることが明確となった。特に、交通政策については、車市場、ドライバー行動、それを支える道路・交通管理のあり方、歩行者行動、公共交通システム、そして移動者とその支援者、等々が大きな課題となってきた。

H20年度のプロジェクトでは、シニア社会における交通問題を、①高齢者ドライバーの増加、②高齢者の交通事故、③高齢者や障がい者の移動介助、④高齢者移動手段、⑤福祉輸送、⑥公共交通システム、⑦在宅サポートシステム、⑧高齢者の移動を考慮した道路構造と交通管理、⑨高齢者の安全を意識した地区（地域）交通計画、といった視点で整理を行ってきた。

さらに、H21年度のプロジェクトでは、高齢化が顕在化している都市部と地方部の両地区で、高齢者の外出実態調査を行い、高齢者の交通行動および実態分析を行った。これと同時に、長野県白馬村における公共交通総合連携計画についてのヒヤリングを行い、実際の過疎地域でのシニア社会のための交通環境づくりの事例研究も行ってきた。

これらの結果を受けて、H22年度の研究プロジェクトでは、シニア社会におけるモビリティを確保するための社会整備のための地域計画と財源確保に関する議論を進めてきた。また、昨年、長野県白馬村での実地調査に引き続き、今年度は長野県木曾町における実地調査も実施した。さらに、新潟県における過疎地域に居住する高齢者を支援するための物流システムの調査分析も行った。その結果として、シニア時代の交通管理・道路管理の視点から、シニア社会でのよりよい交通環境を構築していくための提案を行った。